

京都造形芸術大学 比較藝術学研究センター 国際シンポジウム

# 〈もののはれ〉のデザイン

## — 〈生活=芸術〉の新たな地平



- 司会 高階秀爾
- 出演者 安藤忠雄  
カタリナ・V・ポツシユ  
アン・サンスー  
内田 繁  
柏木 博  
鶴岡真弓  
仲 隆裕  
芳賀 徹

京都造形芸術大学 春秋座

2008年 12月20日(土) 10:00~17:30

入場無料 定員600名(事前申込制) — 開場 9:30 —

主催 京都造形芸術大学比較藝術学研究センター 助成 (財)国際文化交流協会

# 京都造形芸術大学 比較藝術学研究センター 国際シンポジウム

## プログラム

第一部 十時~十二時

開会の辞 高階秀爾 (京都造形芸術大学比較藝術学研究センター所長)

基調講演Ⅰ 安藤忠雄 (建築家・東京大学特別栄誉教授)

「建築と生活」

「今日の日本のデザインにおける〈もののはれ〉」

— ヨーロッパやアメリカと比較した物質主義の文化 —

昼食 十二時~十三時

第二部 十二時~十七時三十分

パネル講演

I アン・サンスー (デザイナー・弘益大教授)

II 内田 繁 (桑沢デザイン研究所所長)

III 鶴岡真弓 (多摩美術大学・芸術学科教授)

「ヨーロッパアジア民族と日本の装飾デザインの交流」

— 〈流れ〉と〈垂下〉の美をめぐって —

IV 仲 隆裕 (京都造形芸術大学環境デザイン学科教授・比較藝術学研究センター研究員)

「生きている庭—古庭園の修理現場から—」

V 柏木 博 (武蔵野美術大学教授)

休憩

パネル討論 司会：高階秀爾

出演：カタリナ・V・ポツシユ、アン・サンスー、内田 繁、鶴岡真弓、仲 隆裕、柏木 博、芳賀 徹

閉会の辞

芳賀 徹 (京都造形芸術大学名誉学長)

京都造形芸術大学比較藝術学研究センターは、これまで、文部科学省によるオープン・リサーチ・センター整備事業の一環として、「芸術と生活」の統一テーマのもとに、さまざまな歴史研究、実地調査、現代造形表現の試みを重ねて来た。今回の国際シンポジウム「〈もののはれ〉のデザイン—〈生活=芸術〉の新たな地平—」は、5年間にわたるこの多面的な活動の裨尾を飾るもので、日本人の生活感情のなかに深く浸透している「もののはれ」の美意識—不変、一定のものへの対極にある「うつろいの美学」—が、建築、室内装飾、家具調度、什器、衣裳、さらには造園や都市計画など、生活と密接に結びついた諸芸術の分野でどのような表現を生み出して来たか、そしてそれがどのような特質と将来への可能性を持っているかを、アメリカ、韓国からの招聘者をまじえた研究者、建築家、デザイナー、アーティストによって幅広く論じようという文字通りの知的饗宴の試みである。それは、われわれの祖先の残した豊かな芸術遺産の意義を改めて見直すとともに、今後の創造活動への新たな指針と展望を提供する絶好の機会となるであろう。

## 〈もののはれ〉のデザイン — 〈生活=芸術〉の新たな地平

Designing the Transience (Monono-Ahare): A New Relationship between Art and Life



お問い合わせ 比較藝術学研究センター  
 聴講を希望される方は、電話、ファックス、E-mail、いずれかの方法でお申し込みください(ファックスの場合は、定員600名を超過しない限り、特に返信いたしませんので、ご了承ください)。  
 電話：075-791-9167 ファックス：075-791-9181  
 E-mail：ircas-info@kuad.kyoto-art.ac.jp

京都造形芸術大学 春秋座  
 606-8271 京都市左京区北白川瓜生山2-116  
 telephone : 075 791 9122  
 facsimile : 075 791 9127  
 市バス5系統「上終町京都造形芸術大学前」下車すぐ  
 叡山電鉄叡山線「茶山駅」より徒歩10分  
 駐車場・駐輪場はございませんので、公共交通機関をご利用ください。

## プログラム

第一部 10:00~12:00

開会の辞 高階秀爾 (京都造形芸術大学比較藝術学研究センター所長)

基調講演 I 安藤忠雄 (建築家・東京大学特別栄誉教授)

### 「建築と生活」



安藤忠雄 (あんどう・ただお)

1941年大阪生まれ。独学で建築を学び、1969年に安藤忠雄建築研究所を設立。社会的な通念、慣習等既成の枠組みと境界を越え、新しい世界を求めて前を向き、闘っている。代表作に、「光の教会」、「大阪府立近つ飛鳥博物館」、「淡路夢舞台」、「フォートワース現代美術館」、「地中海美術館」、「同潤会青山アパート建替計画(表参道ヒルズ)」、「パラッツォ・グラッシ」、「東京大学情報学環福武ホール」など。「住吉の長屋」で日本建築学会賞、アルヴァ・アアルト賞、フランス建築アカデミーゴールドメダル、日本芸術院賞、朝日賞、プリツカー賞、高松宮殿下記念世界文化賞、UIAゴールドメダル、レジオン・ドヌール勲章(シュヴァリエ)等国内外で受賞多数。

基調講演 II カタリナ・V・ポッシュ (プラット・インスティテュート准教授)

### 「今日の日本のデザインにおける〈もののあはれ〉 — ヨーロッパやアメリカと比較した物質主義の文化」



カタリナ・V・ポッシュ (Katarina V. Posch)

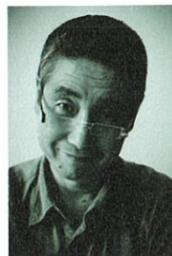
プラット・インスティテュート (ニューヨーク) 准教授。ウィーンでコミュニケーション・デザイナーとしての教育を受け、日本のデザインに関する博士論文により東京藝術大学で博士号(建築・デザイン史)取得。ボンビドゥー・センター(パリ)、ヴィトラ・デザイン・ミュージアム(ドイツ)、イサム・ノグチ美術館(ニューヨーク)などで、「イサム・ノグチ—彫刻のデザイン」といった重要な展覧会を監修する。デザイン史の分野における領域横断的なテーマについて著書、論文、講演多数。

昼食 12:00~13:00

第二部 13:00~17:30

パネル講演 I アン・サンスー (デザイナー・弘益大教授)

### “oullim salm” 「大いなる調和 生活」



アン・サンスー (安尚秀, Ahn Sang-Soo)

弘益大(ソウル)大学院卒。漢陽大(ソウル)にて博士号取得。キングストン大(ロンドン)デザイン名誉博士。Ahn Graphics design代表。弘益大教授(タイポグラフィ)。Icograda副会長(1997-2001年)。Icograda国際会議“oullim”(2000年)議長。Zgraf8大賞、グーテンベルク賞(ドイツ)受賞。ハングルフォント「安尚秀体」他多数。

II 内田 繁 (桑沢デザイン研究所所長)



### 「日本文化と弱さのデザイン」

内田 繁 (うちだ・しげる)

桑沢デザイン研究所所長。日本を代表するデザイナーとして商・住空間、家具、工業デザインから地域開発に至る幅広い活動を国内外で展開。代表作に山本耀司のプティックー連、門司港ホテル、オリエンタルホテル広島他。メトロポリタン美術館等に永久コレクション多数。毎日デザイン賞、芸術選奨文部大臣賞等受賞。平成19年春紫綬褒章受章。

III 鶴岡真弓 (多摩美術大学・芸術学科教授)

### 「ユーロ=アジア民族と日本の装飾デザインの交流 — 〈流れ〉と〈垂下〉の美をめぐる」



鶴岡真弓 (つるおか・まゆみ)

1952年生まれ。早稲田大学大学院修了後、アイルランド、ダブリン大学トリニティ・カレッジへ留学。処女作『ケルト／装飾的思考』で、日本で初のケルト芸術文化史の全体を紹介し、ケルト・ブームの火付け役となる。立命館大学教授を経て多摩美術大学・芸術学科教授。ドキュメンタリー映画『地球交響曲 第一番』で、アイルランドの歌姫エンヤと共演。『ケルト美術』、『ケルトの歴史：文化・美術・神話をよむ』、『装飾の神話学』、『ジョイスとケルト世界』、『装飾する魂』、『「装飾」の美術文明史』、『黄金と生命』、『京都異国遺産』他著書多数。

IV 仲 隆裕 (京都造形芸術大学環境デザイン学科教授・比較藝術学研究センター研究員)

### 「生きている庭—古庭園の修理現場から—」



仲 隆裕 (なか・たかひろ)

京都造形芸術大学環境デザイン学科教授。農学博士(京都大学)。1963年京都市生まれ。千葉大学大学院園芸学研究科修了。京都市文化財保護課文化財保護技師・山中造園・千葉大学助手などを経て現職。専門は日本庭園史・史跡整備計画。著書に『京都の庭園—遺跡に見る平安時代の庭園』(京都市文化財ブックス)、『庭園史をあるく—日本・ヨーロッパ編』(共著、昭和堂)など。史跡名勝平等院庭園州浜整備、シェーンブルン宮苑温室南方庭園修復など、古庭園の調査・修復にとりくむ。

V 柏木 博 (武蔵野美術大学教授)

### 「繕う」



柏木 博 (かしわぎ・ひろし)

武蔵野美術大学教授。近代デザイン史専攻。デザイン評論家。1946年神戸生まれ。武蔵野美術大学卒業。展覧会監修『田中一光回顧展』(東京都現代美術館03年)ほか。著書『モダンデザイン批判』岩波書店02年、『しきりの文化論』講談社04年ほか。

休憩

パネル討論 司会：高階秀爾

出演：カタリナ・V・ポッシュ、アン・サンスー、内田 繁、鶴岡真弓、仲 隆裕、柏木 博、芳賀 徹

閉会の辞 芳賀 徹 (京都造形芸術大学名誉学長)

「ものあはれ」のデザイン  
— 生活と芸術 —  
の新たな地平

# Designing the Transience (*Monono-Ahare*): A New Relationship between Art and Life



高階秀爾 (たかしな・しゅうじ)

1932年東京生まれ。東京大学卒業、同大学大学院満期退学。東京大学教授、国立西洋美術館館長、京都造形芸術大学大学院長を経て、大原美術館館長、京都造形芸術大学比較藝術学研究センター所長。パリ第一大学名誉博士。『ルネッサンスの光と闇』、『近代絵画史』他著作多数。芸術選奨文部大臣賞、フランス芸術文藝勲章コマンドール章、紫綬褒章、レジオン・ドヌール勲章シュヴァリエ章、イタリア功労勲章グランデ・ウフィチアーレ章、日本芸術院賞恩賜賞、文化功労者。



芳賀 徹 (はが・とおる)

1931年山形市生まれ。東京大学卒業、同大学院修了。東京大学教授、プリンストン大学客員研究員、国際日本文化研究センター教授、京都造形芸術大学学長を経て、岡崎市美術博物館館長、京都造形芸術大学名誉学長。『詩歌の森へ』、『渡辺崋山・優しい旅びと』、『みだれ髪の家系』、『平賀源内』、『絵画の領分』他著書多数。サントリー学藝賞、大佛次郎賞、フランス政府パルム・アカデミック・オフィシエ勲章、紫綬褒章、明治村賞、京都新聞文化学術賞。